第５回牧之原市学校再編計画策定委員会　次第

日時：令和２年７月７日（火）午後１時 30 分～
場所：相良庁舎４階大会議室

１　開　　会

２　委員長あいさつ

３　振り返り

４　資料説明

５　議　　事

　○　校数の検討と理由の整理

６　市長あいさつ

７　連絡事項

８　閉　　会

資料1

R2.7.7　第５回学校再編計画策定委員会

■第５回学校再編計画策定委員会　振り返り資料

関係各種計画等

● **第２次牧之原市総合計画重点戦略（平成 27 年度～令和４年度）**

- 戦略１　活力を高め、若者が魅力を感じる住環境や雇用・教育環境などを実現する。

・ 戦略２　共に支え、安心で思いが実現できる地域社会をつくる。
・ 戦略３　経営を見直し、推進力を高める体制を強化する。

● **牧之原市教育大綱基本方針（令和２年度～令和５年度）**

- 小中学校の再編による学ぶ環境の整備
  安心・安全で時代に対応した子どもたちが学びやすい環境を整えるため、小中学校の規模と配置の適正化を進めます。

・ 平成 28 年度～令和元年度版
  ◆小中学校の適正配置と学ぶ環境の整備
  児童数の減少や学校施設の老朽化に伴い、子どもたちが学びやすい環境を整えるため小中学校の規模と配置の適正化を図ります。

● **牧之原市公共施設マネジメント基本計画（平成 28 年度～令和 17 年度）**

- 小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校再編計画を策定します。

・ 市の公共施設は昭和 40 年代後半から昭和 60 年代にかけて建てられた施設が多く、学校教育施設はその述べ床面積の 43.4%を占める。
・ 基本理念（大切にする視点）
  視点１　未来志向で考えよう！
  ・20 年後の将来に向けてワクワク感を持って進めよう
  ・子や孫世代のため、覚悟とスピード感を持って進めよう
  ・優先度の高いことから積極的に取り組もう
  視点２　賢く使おう！
  視点３　共感を大事にしよう！
  視点４　みんなでやろう！
  視点５　まちづくりを考えよう！

まずは、目指す教育環境とは何かを明らかにする！

- **牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針（令和元年度～令和 12 年度）**
  - 安心・安全で学びやすく、通いたい・通わせたいと思われる魅力的な小中一貫校
  - 規模は１学年３学級以上、建築後 20 年間は単学級にならない
  - 津波浸水想定区域外、防災機能の充実
  - 環境への配慮がある施設
  - ＩＣＴ環境の充実等、時代に対応した設備
  - 施設の一部又は隣接した場所に、地域の人が活動できるスペース等、市民と共有できる機能を備えて、人づくりや文化の拠点とする
  - 開校は 2030 年度を目指す

- **これからの小中学校施設の在り方について～児童生徒の成長を支える場にふさわしい環境づくりを目指して～（平成 31 年３月学校施設のあり方に関する調査研究協力者会議）**
  - 新学習指導要領への対応
    新たな教科等への対応や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ができる施設（オープンスペース・学習センター等）等
  - ＩＣＴを活用できる施設の設備
    タブレットの収納・充電場所の確保、無線ＬＡＮの整備等
  - インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組
    バリアフリー、クールダウンできるスペース等
  - 教職員の働く場としての機能向上
    教職員が勉強や研修、準備を十分に行えたり、関係者と交流できるスペース等
  - 地域との連携・協働の促進
    教職員以外の人のスペースの確保、放課後の居場所、施設の複合化・多機能化、地域との交流スペースの確保等
  - 学校施設の機能向上
    建築物としての性能向上、維持管理のしやすさ、防災機能の強化等
  - 変化に対応できる施設設備
    社会変化等に対応でき、長く使いこなせる

- **小学校施設整備指針・中学校施設整備指針（平成 31 年３月　文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部）**
  - 基本的方針
    ①　高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な施設環境の整備
    ②　健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保
    ③　地域の生涯学習やまちづくりの核としての施設の整備

委員会の流れ

第１回　方針や国の政策、ファシリティ・マネジメントについて学ぶ

・　キャリア教育、小中一貫教育及びコミュニティ・スクールの解説
・　県の事例からファシリティ・マネジメントを学ぶ。（施設の量・質・費用のバランスが大事）

第２回　現状を知る（市内学校の視察）

・　菅山小学校と相良中学校を視察
・　データから市の現状を学ぶ

視　察　先進事例を学ぶ

・　規模や特色が違う先進的な義務教育学校（小中一貫校）を３校（茨城県つくば市立秀峰筑波義務教育学校、茨城県稲敷市河内町立かわち学園、千葉県流山市立おおたかの森小・中学校）を視察した。

第３回　目指す学校像と比較校数

（学校像）

・　牧之原らしさを生かせる学校（リアルな体験ができる）
・　安心・安全（立地・施設・防犯）
・　明るくぬくもりがあり、整備された学校
・　みんなの学校（学校だけでなくみんなで子どもたちを育てる）

（比較する校数の考え方）

・　１校か２校を主に考えるが比較として３校を残す。⇒１～３校で比較する。
・　12 校を残す案は比較資料として用意しない。
・　地頭方小学校区は、御前崎中学校であるが、再編を考える際には相良中学校区に入れる。
・　牧之原小中学校は、２校の場合はどちらの中学校区に行くかは協議する。それぞれに入った場合を比較する。今回は、学校全体でどちらかの中学校区に入る形として、旧町で分断しないが、全体でどちらかに行くのが

よいか住んでいる地域で別れてそれぞれに通うかは地域の人の意見を聞きたい。

・　牧之原小中学校は学組のため、組み入れることができない場合を想定して３校目として比較校数に残しておく。

第４回　１校から３校を比較してメリット・デメリットを整理

・　校数について比較資料を元に検討。
・　人口や児童生徒数の推移および推計を確認。（令和元年度生まれは市全体で 216 人（R2.4.1 住基人口より））
・　各種地図や建築費の事例についても確認した。

【意見の傾向】

校数	メリット	デメリット
１校	・　施設が充実 ・　教育や目標を牧之原市として統一できる	・　人数が多く学校運営や子どもの安全面の確保が不安 ・　通学時間が長く負担が大きい ・　地域との関わりが薄れないか心配 ・　クラス数が多すぎて施設の活用がうまくいくか
２校	・　地理的・文化的にやりやすい ・　地域が関わりやすい（協力してもらいやすい） ・　クラス編成ができる ・　通学時間がほどよい	・　予算が２分割されるため充実した施設が建てられるか
３校	・　地域の理解が得られる	・　小規模校が１つだけ残るのは住民の理解が得られない ・　組合問題が難しい ・　１校だけクラス替えができない（大規模校との選択を可とするか）

第４回学校再編計画策定委員会記録

１　日　時　令和2年4月 14 日（火）午後1時 30 分～午後4時 10 分

２　場　所　牧之原市役所相良庁舎3階会議室

３　参加者　委員 10 人全員出席

島田桂吾、横田恭子、櫻井真弓、小柳津敏法、石神綾子、服部真和、種茂和男、赤堀康彦、増田ひとみ、良知恵里香（順不同・敬称略）

４　要　旨

- 1～3校に再編した場合のさまざまな項目を比較して、それぞれのメリット・デメリットを整理し、その中で委員が特に重要だと考える事項について話し合った。
- 学校区を考える際には、「市としての一体感」か「地域性を残すこと」のどちらを重視するか。「統合した大規模校」と「さまざまな学校があること」のどちらのメリットを重視するかが論点となる。
- 義務教育段階の学校再編なので、義務教育・学校教育のあり方の理念に大きく関わる。10 年後、20 年後の学校教育の姿からも考える必要がある。
- 1校で大規模になっても小規模クラス編成などによりうまくマネジメントができるかもしれないし、小規模校であっても学校選択ができればよいのかもしれない。運営面、安全面をどうするかは、学校を考える際に不可欠なこと。
- 老朽化を考えると 12 校すべてを今のまま残すことは厳しく、1校にすることも 10 年後となると少し厳しいと感じる。現状としては2～3校をベースにしながら、場所の候補も含め、地域性、関わり、多様性、機会均等というところについて、もう少し議論をしていく。

５　意見のまとめ

（１）協議１　１～３校のメリット・デメリットについて

◎市として、一体感か地域性残すのかが大きな論点となる。

分類	項目	1校	2校	3校
行政	予算	集中して使える	分散される	分散される
	一体化（政策・情報・交流）	集約され牧之原市として総合的なものになる	旧町の文化・地域性がある（旧町単位のメリット・デメリット有）	旧町の文化・地域性がある（旧町単位のメリット・デメリット有）
	スクールバスの運営	多くの台数が必要	台数は比較的少ない	台数は比較的少ない
学校・教員	施設	充実する	学校による違いがでる（それが逆によさにもなる）	学校による違いがでる（それが逆によさにもなる）
	規模	大規模すぎる	適正規模に近い	1校だけ小規模になる（通う側が大規模・小規模を選択できるようにすることも可能）
	運営面	人員の把握・安全面に難しさ	人員の把握・安全性が確保できる	1校だけ小規模になる（通う側が大規模・小規模を選択できるようにすることも可能）
	地域との関わり	遠くなるため、地域の理解が得られるか	既にあるものを活かすことができる	既にあるものを活かすことができる
子ども	規模（学びやすさ・人間関係含む）	クラス替えでき、多様な人間関係が築けるが、規模が大きすぎる	クラス替えができ、学びやすく人間関係も固定化しない	1校だけクラス替えができない
	通学時間・手段	距離が遠い人多く、時間が掛かり、バス通学が増える	通いやすい	通いやすい
地域・保護者	関わり	新たな関係を築く必要がある	現状に近いので基本的に関わりやすい	現状に近いので基本的に関わりやすい
	旧町の文化	旧町というより牧之原市としての新たな文化が生まれる	旧町の文化・特色を継承することができる	旧町の文化・特色を継承することができる

（２）協議２　どの項目を重視するか。大事にしたいこと、視点など

- 学校のあり方として、多様性を残すことによってこれまでの形状も継承しつつ、小規模校をセーフティネットとしても残すことがメリットである。
- 1校では大きすぎてしまって運営していくイメージが持てない。1校になればそれだけお金が掛けることができ、いいところもたくさんあるが、マンモス校のマネジメントの仕方に課題があると考える。
- 小規模校が残ることのよさも分かるが、1つだけが単学級で残るということはないと思う。学校運営では「学びの充実」と「安全」が大事だと考える。そのためにも地域の方々の存在が欠かせない。2校になれば旧町のよさが出るので、それぞれのよさを活かしていけるのではないか。
- 10 年後、30 年後は、AIが進んできて、日常の学校教育そのものが変わり、おそらく教科の授業は各家庭で映像を見て学ぶ時代になるのではないか。地域に密着した旧町単位に箱物としての学校が1校ずつあって、その地域の文化や教育、体育、倫理・道徳を学校で教えるようになるのではないか。人間性を磨く面では一か所に集まって、コミュニケーション取ることは大事なこと。大きい・小さい、この場所がいい・悪いではなく、もっと大局を見て考える必要がある。
- 今の学校は地域に密着していてよいが、将来お金が心配。子どもたちや地域のことを考えて、どのような状態が一番いいかを考える必要がある。牧之原市は旧相良町・旧榛原町でできているが、旧町内の人同士があまり分かり合えていないため、まずは相良で1つになる、榛原で1つになることで新しい地域性が生まれてくるのではないか。児童生徒数的を見ても2校が市民理解を得られると考える。予算、規模、地域性を重要視して考えていく。
- 1校は、メリットよりデメリットの方が多い。自分は2校か3校かと思う。地域らしさ、人間らしさはすごく大事なことであり、地域の方と小規模ならではの人のつながりも大切。3校にした場合、自分で小規模校か大規模校かを選択できるのはよいと感じるが、それが牧小中学校区でなくてもよいと思うので、平等に考えた方がよい。地域性を活かしながら子どもが楽しく学べることが一番大事なので、それを主において学校づくりができたらよい。
- 予算を考えなければあこがれの学校ができると思うがそれはできない。しかし、子どもたちが、そこに通いたいと思える学校が一番だと思う。学校の学びは教科書を使ったことはもちろんだが、人との関わりや体験で学ぶことが大きいと思っているので、地域との関わりは新しい学校でも重視したいところである。特別支援学級も今まで以上に増えてくると思う。大勢の中で活動することが苦手な子どももいるため、自分のことをきちんと見てくれる大人がいると子どもが実感する環境としては、1校はあり得ない。2校か3校にして、地域との関わりをつなげたい。
- 1校にすることで、旧町の垣根がなくなり市として一つになれるチャンスだとは思うが、1校という選択肢は無い。大規模校になじめない子も出てくる可能性はあ

るため、小規模校を残す選択肢もあるかもしれないとも考えた。現在子どもが小規模校に通っているが、子どもは、クラス替えがあったり、たくさんの友だちがいたりする大規模校をうらやましいと感じている。今、他に小規模に通っている子の中でも大規模校に通いたいと思っている子どももいると思うので、大規模学校の子も小規模学校の子も学校を自由に選択できると良い。3校はコスト面が心配。牧之原市は田舎だからできないこともあるが、できることがある。今だからこそ、地域性を大切にしたい。旧相良町・旧榛原町に分かれてしまってもそこで育った子どもはいい子に育つと思う。2校か3校のどちらがよりよいかはっきりは分からない。

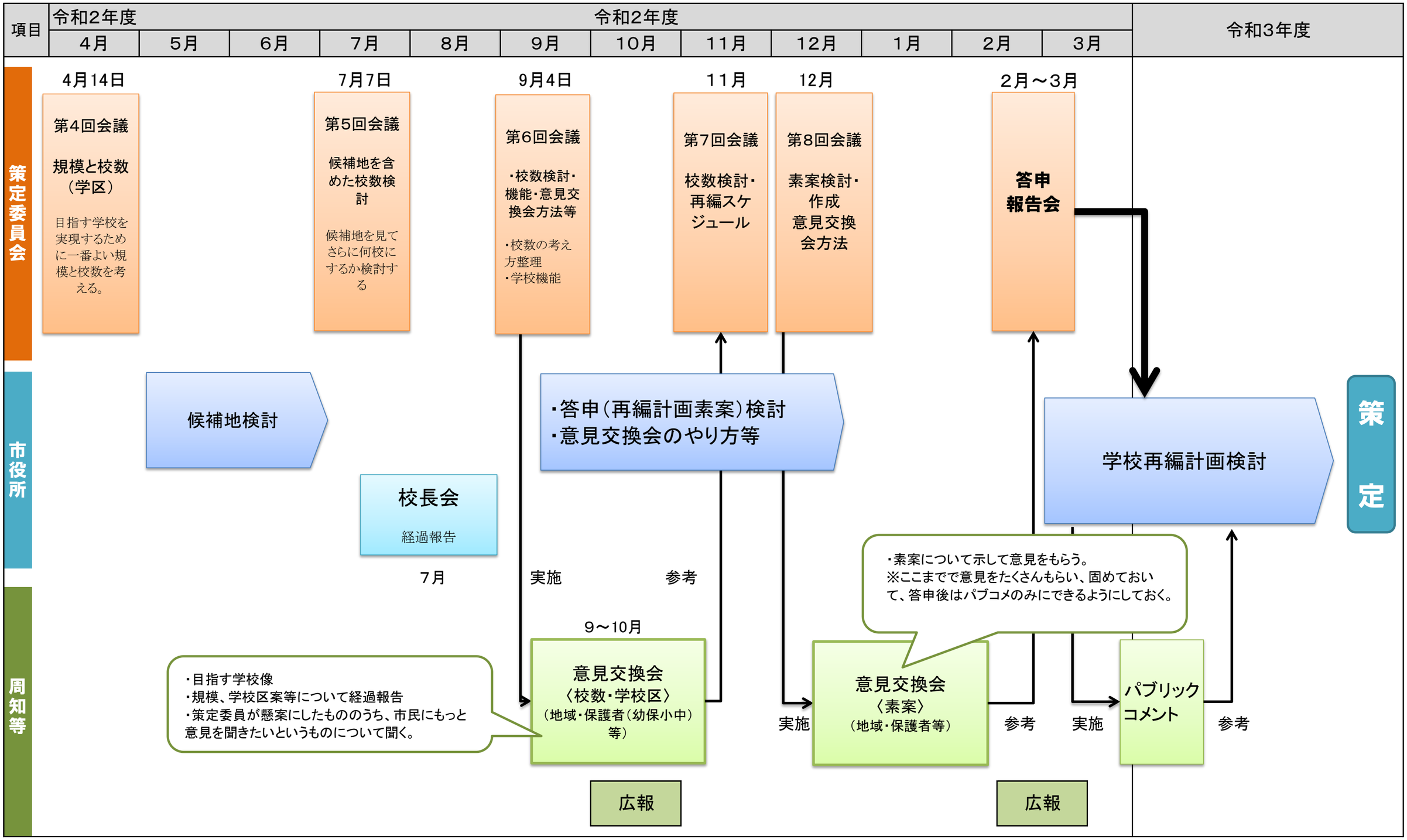
- PTA の運営面から考えると、1校は大きすぎて、活動も多様化しすぎてしまい、PTAがまとまるのは難しい。地域が広すぎると集まること自体が難しくなるため、2、3校がベストだと思う。小中一貫校になった場合に、新しいPTA運営をすることは難しいかもしれないが、それでも2～3校であれば、それなりの地域性も保たれているので、まとまりやすいのではないか。
- 小規模のよさを語るなら現在の 12 校のままでいいという議論になってしまう。しかし、あきらかに人口が減ってくるため、今、学校がどうあれば理想形かということについて先手を打って考えている。これは学校づくりでもあるし、まちづくりでもある。牧之原市をどんな市にしていくのかを一緒に考えている。積極的に小規模校を1校残そうということであるのならば、前向きな1つの選択肢として議論ができると思うが、12 校を残すのは違う話となる。市に1校の学校になると大規模すぎるという意見から、2校にするか3校にするかの議論になったかと思うので、大規模のよさ、小規模校のよさをとことん議論していくのがよいと思う。公の教育は、どの地域に住んでいても同等の教育が受けられる平等性が求められるため、もし小規模のよさを残す選択をして3校にするのであれば、学区の考え方や選択についてどう定義付けていくのかということが課題となってくる。
- ICTや学びの環境が今後どうなっていくか分からないが、人と人のつながりは、どんな時代になっても必要だと思う。アメリカなどではインターネットだけで授業をしているところも出てきて、箱がいらない学校も出てきているとは思うが、小中学校で箱があって集まって授業したことはその人の中で残っていくものになるのではないかと思う。そういう前提で 10 年後、20 年後にいい方向を探っていくと今は現実的にありえるのは2校か3校。将来的には 1 校もあるのかもしれないので、可能性を残しながら段階的に考えていく。

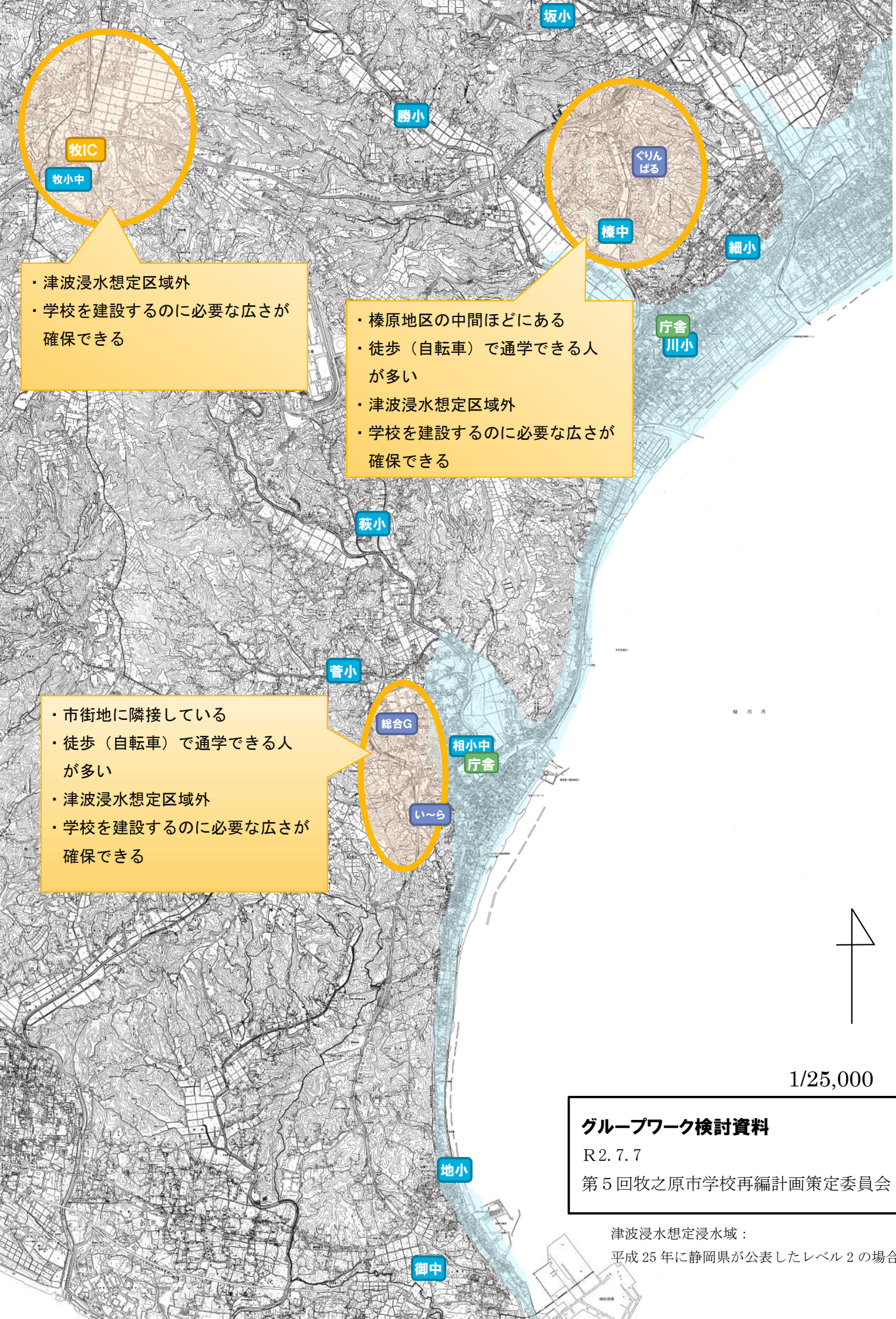
資料2

学校再編計画策定委員会スケジュール【修正版】

※令和2年度末までに答申することを想定したスケジュール。
検討の進み方によっては後ろにずれていく可能性有。

R2.7.7　学校再編計画策定委員会





1/25,000

グループワーク検討資料

R2.7.7

第５回牧之原市学校再編計画策定委員会

津波浸水想定浸水域：
平成 25 年に静岡県が公表したレベル 2 の場合

■１～３校の特徴

分類	項目	1校	2校	3校
行政	予算	• 予算が集中して使える	• 予算が分散される • 維持管理費がかかる	• 予算が分散される • 維持管理費がかかる
	市としての一体化 （政策・情報・交流）	• 集約され市として総合的なものになる（市として1つの文化）	• 旧町の文化・地域性がある（旧町単位のメリット・デメリット有）	• それぞれの文化・地域性がある（旧町単位のメリット・デメリット有）
	施設	• 充実する（理想の学校がつくれる可能性あり）	• 学校による違いが出る（それが逆によさにもなる？）	• 学校による違いが出る（それが逆によさにもなる？）
	スクールバスの運営	• 多くの台数が必要	• 台数は比較的少ない	• 台数は比較的少ない
学校・教員	規模	• 大規模すぎる	• 適正規模に近い • 段階的な再編を見越すか	• 1校だけ小規模になる（通う側が大規模校・小規模校を選択できるようにするか） • 段階的な再編の可能性
	運営面	• 人員の把握・安全面に難しさ • 教員が同じ方向を見て進める	• 人員の把握・安全性が確保できる	• 1校だけ小規模になる（通う側が大規模校・小規模校を選択できるようにするか）
	地域との関わり	• 遠くなるため、地域の理解が得られるか	• 既にあるものを活かすことができる	• 既にあるものを活かすことができる
子ども	学びやすさ・人間関係	• クラス替えでき、多様な人間関係が築けるが、規模が大きすぎて主体性がどこまで育つか。	• クラス替えができ、学びやすく人間関係も固定化しない	• 1校だけクラス替えができない
	通学時間・手段	• 距離が遠い人多く、時間が掛かり、バス通学が増える	• 通いやすい	• 通いやすい
地域・保護者	関わり	• 新たな関係を築く必要がある	• 現状に近いので基本的に関わりやすい	• 現状に近いので基本的に関わりやすい
	旧町の文化	• 旧町というより牧之原市としての新たな文化が生まれる	• 旧町の文化・特色を継承することができる	• 旧町の文化・特色を継承することができる
立地	学校の場所			